

## 気象庁の海洋気象観測船について

気象庁では、「凌風丸」と「啓風丸」の2隻の船舶を用いて、様々な海洋気象データを観測しています。

水温・塩分・水素イオン濃度 (pH) をはじめとする海洋観測のほか、海水中および大気中の二酸化炭素濃度の観測、バルーンを放球して高層の気温、湿度、風の観測や目視での天気や波の観測も行っています。近年では、衛星測位システム (GNSS) により、線状降水帯の発生要因である海上での水蒸気観測にも取り組んでいます。

これらの観測結果は、衛星通信で送信され、天気予報へ利用されるだけでなく、海洋の長期的な変動をとらえて気候変動との関係を調べるためにも活用されています。



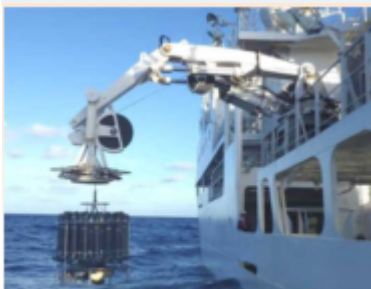
二酸化炭素分析機器



凌風丸 (りょうふうまる)

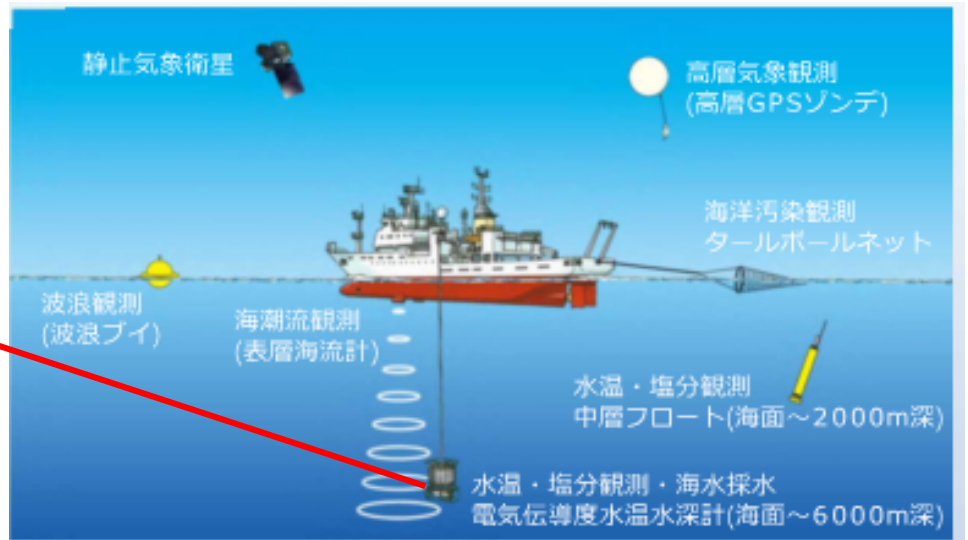


啓風丸 (けいふうまる)



観測機器を海中へ

観測機器をクレーンで海中に降ろし、水圧・水温・塩分などのデータを取得します。また、海面から海底までの最大36層の深さの海水を採水します。



防災気象情報は、テレビ・ラジオ・またはホームページから  
**石垣島地方気象台ホームページ** <https://www.data.jma.go.jp/ishigaki/>  
 ※ ホームページは、スマートフォン対応済みです。  
 お問い合わせ先：石垣島地方気象台 電話番号：0980-82-2159

